

中部ニユース

シネスコ版

高知新聞ニユース No. 226
新潟新聞ニユース No. 154
山形新聞ニユース No. 167

No. 491

38.6.14

一、完成した黒四発電所

—富山

北アルプスで有名な黒部峡谷に世界でも四番目という大きなダムが完成、去る五日その完工式が行われました。深谷に設置されたダイナマイトの爆音を合図に一齐に放水され、水煙と豪音の中で、二五万八千キロワットの黒四発電所が誕生したのです。機械施設は災害をさける為地下に設けられ、ダム建設に使用されたトンネルもやがて観光方面にも派及します。

この様にして黒四発電所は内外共に各界の期待を浴びつつ、大きく貢献して行く事でしょう。

一、テレビエイジ

—東京・岐阜

テレビ放送が始まって十一年目、雨後のタケノコのように育ったテレビですが、既に一千万の大台を突破して、テレビ技術学校は大繁昌。女性エンジニアもブラウン管の技術取得に打込んでいます。

一方、頭打ち状態にきたテレビメーカーは新種の開拓にシノギ削っています。銀座の下真中に設置されたテレビ電話もその一つ。ビル・ラッシュの折空から鉄の運搬車が降って来るほどの危険な東京の空である。あるデパートの売場拡張工事現場では工業用テレビを使ってお客様へ危険防止をサーブಿಸ。消費者王様の世の中とはいえ、ぬかりなしのPRぶりです。

テレビの活用は喫茶店にもあります。自動カメラでお客様をスムーズに空席に案内できるようにとの算段ですが、何とも身勝手なお客さん。うつしだされるのは御免というわけで効果は逆と出ました。

一方四方を山に囲まれた岐阜県郡上郡八幡町では、町独自のテレビ放送を始めます。民放のチャンネルを一日十五分間を二回借りて、地元のニュースと話題を放送しようというものです。だが悩み種は町民の負担金。町のスポンサー探しに懸命いよいよ、テスト放送までこぎつけました。番組は町自慢の郡上踊りです。全て町のアマチュア無線家が組立た器材を素人カメラマンが一生懸命に操作します。

マスコミの洪水の中で、自分達の創ったニュースがブラウン管を色彩の日を染しみに画面を見入るのでした。

アイモ風土記

一、地すべり地帯

—糸魚川

日本海の荒波そして水田・山林に包まれた新潟県糸魚川地方に、今年もまた入梅シーズンがやって来ました。田植仕事も終って息つくひまもなく、県下一帯を襲った豪雨は、各地に早くも地すべりを続出させました。部落の人々は、事ある度に避難準備に大わらわです。地元の消防団は砂防工事にそして徹夜の警戒を続けます。この地方は古くから地質がやわらかく、従って地すべりが生じやすい条件が重なっています。昭和三十六年この発電所一帯も地すべりに襲われ、当時のなまなましい傷跡が各地に見られるのです。

復旧工事も進まず、災害対策に今日も市議会が開かれています。何んの変テツもないこの地方。いつもは穏やかな田園風景なのです。しかし災害で田畑を失った人々は、変りはてた姿に一日も早く復旧作業へと急ぐのです。こうして農耕に対する愛着心の強いこの地方の人々、宿命ともいうべき環境に生き続けていくのです。

658

318

265

99